

# 手をつなぐ親たち

第39号

平成26年3月31日



絵 柏倉 治忠 さくらんぼ共生園  
題字 ワークランドペにばな 山野井 整

一般社団法人  
山形県手をつなぐ育成会

編集・発行 〒990-0021 山形市小白川町二丁目3-31 山形県総合社会福祉センター内  
TEL (023) 623-6572 FAX (023) 623-6571 E-mail: y-ikuseikai@coda.ocn.ne.jp 発行責任者 田中俊久  
ホームページ <http://yamagata-ikuseikai.net/> ブログ <http://yamagatakenikuseikai.blog.fc2.com/>



来賓を迎えて大会全体会を開催

第25回山形県知的しょうがい者福祉大会 大会テーマ

『より豊かな地域のくらしをめざそう』

寒河江文化センターで10月20日開催

第25回山形県知的しょうがい者福祉大会を10月20日・日曜日、寒河江市文化センターで520人の参加者を得、開催した。あいにく朝から雨模様だったが、午前中の分科会、午後からの全体会と順調に行うことができた。全体会では、山形県知事・山形県議会議長・寒河江市長の三氏より心温まる祝辞をいただいた。また、長年にわたって、当育成会に多大な貢献をされた次の方々に感謝状・表彰状が授与された。

■山形県知事感謝状

我妻 壽光 氏

(置賜ブロック育成会会長・県育成会理事等として貢献)

■大会会長表彰状

佐々木 秀雄 氏

(庄内ブロック育成会会長・県育成会理事等として貢献)

村上 勝子 氏

(温海育成会副会長等として貢献)

佐藤 治八郎 氏

(松山育成会理事等として貢献)

田中 智子 氏

(山形市育成会副会長等として貢献)

会田 ひろ子 氏

(県美展でさおり織作品が2年連続入選、本人による顕著な活躍)

亀田 ハル子 氏

(上山市育成会事務局長等として貢献)

木村 久夫 氏

(寒河江市育成会事務局長等として貢献)

受賞者の今後ますますのご活躍を期待したい。

さらに、10項目の大会決議、7項目の本人大会決議が採択された。

# 第25回福祉大会で3分科会開催

10月20日  
午前

## 育成分科会

地域活動の活性化を目指して  
パネルディスカッション実施

育成分科会「地域の暮らしをより豊かにするにはどうするか?」時代のニーズに即した育成会の役割を問う」では、パネルディスカッションを行った。それぞれの役割は次のとおり。

●コーディネーター 我妻壽光氏  
(県育成会理事)

●基調報告「山形県手をつなぐ育成会の現状と課題、そして今後への期待」 井上博氏(山形県知的障害者福祉協会会長)

●パネラー「各育成会支部の現状と課題」 藤田浩司氏(村山市育成会会長)、金山弓子氏(山辺町育成会事務局長)、塩野千晴氏(川西町育成会事務局長)

はじめに井上博氏より、基調報告があった。育成会がピアサポート(仲間同士の支え合い)機能を発揮し、若い会員の積極的な参画を期待するとの指摘であった。さらに、本人活動の推進、学校や事業所等との

連携を図っていく必要性について強調された。

パネラーからは、育成会支部の課題について次のような報告がなされた。

- ・知的障がい者を支えるための施設が不足している。
- ・地域に受け皿となる特別支援学校が設立され目的を達成したら、育成会活動としてのモチベーションが低下してしまった。
- ・会員、本人の高齢化により会合への参加が消極的になっている。
- ・会員数が減少し、独自の事業を展開するのも難しく、会の存在意義が問われている。



左から 我妻氏・井上氏・藤田氏・金山氏・塩野氏

フロアを交えての意見交換では次のような話題がかわされた。

- ・障がい者に対する差別は、学校教育にも責任が大きい。今以上に、障がい者との交流を積極的になされる施策を推進する必要がある。
- ・育成会活動を活発にするには、会員にとつての切実な目標を設定することだ。みんなで見守ることができる。みんなで共有できる目標を話し合ってみよう。
- ・グループホーム等の設立に向けた取り組みが今後の課題である。
- ・小中学校との連携によって、先輩の育成会会員から体験談などを話してもらい、育成会の意義について啓発を図っていくことも必要である。
- ・育成会活動資金として、市内各戸より助成金をいただいている。町内会で集金して、それにより、多くの事業を展開している。
- ・グループホームの新設で地元民の反対があった。住民との話し合いを何度ももって理解を得ることができた。
- ・会員も本人たちも高齢化してきている。若い人たちにとって魅力ある活動こそ今後の課題だ。
- ・地域活動にとつて、民生員児童委員との連携は不可欠である。常日

ごろからの協力体制が得られる働きかけも必要である。

各育成会において、地域の福祉協会の連携をもっと密なものにしていくことも重要だ。

世の中で障がい者が普通に生きていけるか、はなはだ疑問である。育成会がその実現に向けて、声を大にして訴えていくべきだ。

## 本人分科会1

本人たちがみんなと  
いっしょにしゃべったよ

本人分科会1には、50人余が参加した。本人はもちろんだが、多くの保護者、事業所職員も参加した。

ワークショップ(みんながしゃべる機会を設けた集まり)によって、積極的な発言がここそこに見られた。自分の番がどんどんせまってくる。急にあてられてとまどうこともあった。それでも、テンポの良い活動に引き込まれた。これからの本人活動のメニューが一つ増えた。

次のようなスタッフが進行にたずさわってくれた。

●進行リーダー 奈良崎真弓氏(本人の会サンフラワー所属、みんなを知る見るプログラム開発委員)

●支援者 角田辰夫氏(居宅介護支援事業所ひなたね、みんなを知る

見るプログラム開発委員)

- 進行役 細矢夢香氏(いちごの会)、林里奈氏(天童ひまわり園)
- 進行助手 澁谷博夫氏(山形県知的障害者福祉協会)、八柳律子氏(同)、山川晴美氏(社会福祉法人愛泉会)、川島晴美氏(天童ひまわり園)



立っているのが支援者の角田辰夫氏

## 本人分科会2 楽しくめいっばいダンス

本人大会2は、参加者が1000人余と大会議室いっぱいとなった。

「みんなでダンス」ということで、自由に自分の気の向くまま音楽にあわせて動く。特別なふりつけがあるわけでもない。場のふんいきに合わせて動けばいい。うまいへたなんて関係ない。楽しく元気を動きをすることがねらい。その指導をしてくれた

のは、お二人。

- 渡邊京子氏(山形心体表現の会・伊藤美和氏(同))

お二人のリードによって、参加者は心おきなく部屋中動き回った。ダンスメニューは次のようなものだった。

- まねっこダンス リーダーの動き、表情、声などをまねる。
- くつつくダンス 体のいろいろな部分をくつつけてつながる。
- ペアでダンス 鏡のようにまねしながらダンス
- ゴムでおどろろ

山形心体表現の会は、インクルーシブ(障がいの有無に関係ない全ていっしょ)なダンスパフォーマンスグループ。月1回定期的に活動を行っている。とっておきの音楽祭、まちかどコンサートなど、いろいろなイベントにも出演している。山形をホットにしている今注目のグループである。



ダンス指導してくれた伊藤美和氏

## 地域活性化事業研修会を7回開催

赤い羽根共同募金配分事業 若い保護者に関心あるテーマを中心に  
 Ⅱ 学校・年金・進路・権利擁護・グループホーム等Ⅱ

平成25年度「地域活性化事業」研修会を県内各地域で行うことができた。開催地の育成会会長及び事務局のご協力・ご努力により多くの方々に声かけしてもらい、参加者には好評だった。育成会の会員はもちろん、非会員からも参加してもらうことができた。育成会活動拡大の一助になった。本事業では、若い保護者向けのテーマに関する研修内容を中心にした。若い人たちが育成会活動に関心を向けてもらうよう配慮した結果である。

第1回6月5日「学校選びのポイント」(長井市民文化会館)、参加者20人。講師は、杏澤聖真教育庁義務教育課指導主事、吉田由起子米沢養護学校教諭のお二人。  
 長井市に新設される県立特別支援学校の分校について、質疑が活発に交わされた。

第2回6月28日「障害基礎年金」(山形市総合福祉センター)、参加者28人。二関郁子サポートセンター  
 第3回7月12日「卒業後の進路」(東根市タントクルセンター)、参加者17人。講師は、安藤善宏村山市社会福祉協議会事務局長にお願いした。

第4回9月6日「権利擁護」(鶴岡市にこ♥ふる)、参加者33人。講師は、吉川かおり明星大教授。  
 ワークショップも取り入れた実践的な研修会であった。家族生活を見直すきっかけづくりとなった。

第5回10月4日「地域活性化事業」(山形市総合福祉センター)、参加者28人。二関郁子サポートセンター  
 なお、第1回〜4回の研修内容は、本誌第38号にも掲載した。それも参照してもらいたい。また、第5回〜7回については以下のとおりである。

## 第5回研修会

「障害基礎年金」その時に  
なつてあわてないために！」

講師Ⅱ 関郁子所長

第5回研修会は11月8日(金)、新庄市ゆめりあで開催した。参加者31人。特別支援学校の保護者が中心だった。二関郁子サポートセンターゆめりあ所長の障害基礎年金に関する申請手続きについて詳しく話をしてもらった。そのポイントを理解することが出来た。精神科医の診断書が必要なこともわかった。また、育成会の先輩に相談してアドバイスを得ることが有意義だったことが話題にもなった。一人で悩まず経験豊富な先輩を活用すればいい。こうした話を聞いて安心することができた。



第5回地域活性化事業研修会「障害基礎年金」

これをきっかけにもっと多くのことを勉強したいので、次回の研修会にもぜひ参加したいといった意見が多く寄せられた。

## 第6回研修会

「グループホーム・  
ケアホームの生活」

講師Ⅱ 庄司康夫向陽園園長

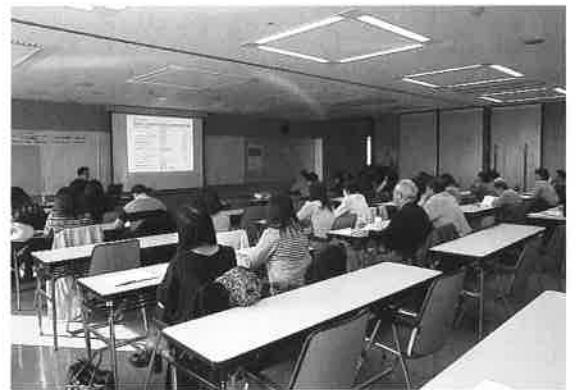
第6回研修会は12月4日(水)、山形市総合福祉センターで開催した。参加者37人を数えた。非会員も多く参加した。

講師は、庄司康夫社会福祉法人愛泉会向陽園園長。

愛泉会では、現在ケアホームを11か所運営している。入所施設の定員を減らしてケアホーム移行に力を入れている。障がい区分6の重度の人もケアホームに移行し、排泄・食事・睡眠が安定するといった成果が上がった例も紹介してもらった。こうしたホームの拡大を図る上での課題も次の5つ述べてもらった。

①地域間格差の解消、②報酬体系の見直し、③支援の質の担保、④高齢者への支援、⑤重度障がい者への支援

参加者にとって、わかりやすい解説だったので、多くのことを学んだとの感想が多数だった。



第6回地域活性化事業「グループホーム・ケアホームの生活」

## 第7回研修会

「グループホーム」世話人さん・  
生活支援員さん教えて〜」

第7回地域活性化事業「グループホーム・ケアホーム」教えて世話人さん・生活支援員さん〜」研修会は、1月23日(木)山形市総合福祉センターで開催した。

第6回研修会の講演会をふまえて、実際グループホーム等で支援している職員の話を聞きたいという要望にこたえたものである。

参加者は40人だった。  
パネルディスカッションによって、

さまざまな視点から話を聞き、活発な質疑がなされた。  
コーディネーターは、八柳律子氏

(愛泉会就労支援部長)。  
また、パネラーは、中村民子氏(ケアホーム支援センターみらい生活支援員)、佐藤弘美氏(ケアホームあすなろ世話人)、百瀬むつ子氏(共同生活事業所第3ホーム世話人)の3名であった。

利用者の生活の様子、生活支援員・世話人の仕事、休日の過ごし方、生活費等について紹介してもらった。家庭的なふんいきの中で、安心できる生活づくりにつとめていること、そして、一人一人の利用者に即した支援が行われていることがわかった。施設見学の間があればといった声も聞かれた。いつでも、施設側では対応可能とのことである。



第7回地域活性化事業「グループホーム」世話人さん・生活支援員さん教えて〜」



# 相談員・支部会長合同研修会 2日間にわたって開催 高齢化の問題について

平成25年度山形県知的障がい者相談員・支部会長合同研修会は、11月21日(木)～22日(金)の二日間開催した。会場は、山形県身体障害者保養所「東紅苑」だった。参加者は、1日目が39人、2日目が20人だった。

研修会テーマは、「知的障がい者等の高齢化に関する理解を深める」ということで、3人の講師より、高齢化の問題について貴重な提言をいただいた。今後、こうした提言をふまえて地域における取り組みを進める必要がある。

## 「障がい者的高齢化について」

鈴木 一郎 氏  
(山形県障がい福祉課 課長補佐)

本県の療育手帳保持者の高齢化率は全国平均を上回る。本県が11・3%に対して、全国平均は9・3%である。

また、障がい者支援施設利用者の高齢化率も全国を上回る。本県が21・1%に対し、全国は13・1%となっている。

入所施設は高齢化が進んで、運営上の課題もある。在宅の人が新たに

60歳過ぎてから入所するのは難しい。在宅の人で医療的ケアが必要ない場合は、グループホーム等の利用を考慮すべきである。自宅から離れ、外部サービス



鈴木一郎氏による講演

の導入が必要となってくる。親も子も高齢化し、健康面に不安をかかえれば、介護サービスが求められる。家族支援が難しくなる前に、

いかなる対応をすべきか考えておく。それには、相談支援事業所から早目にアドバイスを得ることも重要である。また、成年後見制度の活用も視野に入れるべきである。

## 「高齢化に向けた生活支援について」

佐々木 良子 氏  
(山形県手をつなぐ育成会副理事長)

通所施設「ワークランド」には、

の利用者の健康調査の結果を見て、驚いた。成人病予備軍が多かった。糖尿病、脂肪肝、コレステロール、

肥満といった要注意の利用者である。こうした傾向に対して、家族も気にしていない。食事や運動を含めて、

事業所などの協力も得て、健康にもっと配慮した対応が必要である。ただ、利用者の中には家族の努力によって、健康面で要注意だったのが健康を回復することができた事例もある。

家族に生活上の変化が生ずること、本人にも大きな影響が出てくる。親の退職・解雇、あるいは親の病気・入院、そして死亡といったことが起きる。それによって、本人の今までの生活が維持できなくなる。

本人にとっては、納得できない状況に陥っている例がある。問題解決にあたっては、関係機関との連携を図り、より良い方向づけに努力している。相談支援事業所、社会福祉協議会、最寄りの施設との連携・協力は不可欠である。

特に今、「1番好きな自分の家、2番好きな所はどこ？」と心がけて、取り組んでいる。

## 「知的障がい者の高齢化に係る課題について」

武田 庄司 氏  
(山形県立総合こころ希望が丘所長)

希望が丘の入所者の平均年齢が10

年前の平成15年は46・7歳だった。平成25年は、51・7歳と5歳高齢化している。

それに伴い、診療所受診者数も増加している。肺炎、骨折、生活習慣病等の増加もめだつ。さらに歯科疾患が多く、食に関する障がいによって特別食をとらざるを得ない入所者も4分の1程度いる。刻み・粥、軟菜食を食べている。

また、高齢者にも対応できる施設の設定、機能が十分整えられていない状況にある。入所者の高齢化によって、医療面や日常生活上の介助負担が大きくなっている。

まとめると、高齢知的障がい者の支援には次のような課題がある。①疾病・健康に関する支援 ②服薬に関する支援 ③特別食に係る支援 ④日常生活での介護に関する支援 (食事・入浴・排泄・整容・移動・移乗) ⑤施設整備や備品等環境整備

結論とし

て、高齢になっても安心して介護サービスを受けられる社会の創造が必要である。



武田庄司氏の講演

## 市町村育成会の活動紹介



### 山形市手をつなぐ育成会

会長 伊豆田 公蔵

どこの支部でも同じと思いますが、理事会、総会に始まり、研修会、部会、地区懇談会、新年会と続きます。特徴ある活動としては前に紹介したと思いますが、「手をつなぐサロン」があります。平成20年に始めました。たまに変更になるときもありますが、偶数月の第2水曜日です。始めたきっかけは、全日本育成会機関紙「手をつなぐ」の勉強会でした。2カ月分の「手をつなぐ」を持って集まり、分からないところ、疑問に思うところ、感想など話し合っ理解を深めることです。

年月を重ねるうちに、勉強会から世間話、愚痴話と情報交換の場としても利用されるようになりました。ただ残念なことに、参加する方が少なくなりました。

その時のメンバーによっては、なかなか言えないこともあるかもしれませんね。ちよつと集まって、ちよつとお茶を飲んで、ちよつと雑談して、ちよつと愚痴って、ちよつ

と情報を得て。こんなこともしてみようか等、堅苦しくないちよつとの集まりをこれからも続けていきます。



山形市手をつなぐ育成会総会

### 白鷹町手をつなぐ育成会

会長 金田 正子

ある会員の「みんなの集まる場所が欲しいね」の一言から、町内のボランティア団体「ちよぼらの家」を借りて「みんなの集まる場所」がスタートしました。親子でお茶を飲んだり、話をしたり、昼食を作って会食したりして過ごしていましたが、会員の高齢化もあり、親亡き後の我が子の将来を心配し、ケアホームを望む声が大きくなり、先ずは自分達でできることから始めようと、平成

23年7月より、「ちよぼらの家」の協力を得て日中訓練と宿泊訓練を始めました。最初は、少人数からのスタートでしたので、会員の皆さんに関心を持って貰いたいと折りに触れケアホームの必要性を話し、会員の意識を高めてきました。平成24年11月より、行政、町内の作業所と育成会事務局の社協、育成会とでケアホーム検討委員会を発足し、研修会や視察を行ってきました。今後は、もう少し掘り下げた検討委員会を行い、近い将来ケアホームの夢が実現するようがんばりたいと思います。



ケアホーム検討委員会による視察研修

## 県内事業所の特色ある事業紹介



### 多機能型事業所わっしょい!

柴崎 彩子

総合福祉支援センターは、県から無償で借り受けた建物を改修し整備を行い、障がい福祉サービスの拠点として、利用者一人ひとりの想いに耳を傾け、その人らしく生きることが目指して支援しています。その中の事業の一つである多機能型事業所わっしょいでは、様々な障がいをもった利用者が、笑顔で楽しくそして充実した時間が過ごせるよう、作業活動や支援内容の工夫を行っています。日中活動の場を提供しています。また、楽しく働くためには、利用者



屋外活動 みんなでピース

同士のコミュニケーションも大切なものと考え、職業指導員のもと、作業を通して挨拶や報告の訓練、毎日の反省を行い、明日への就労意欲につなげる事にも力を入れています。作業内容としては、タオルのプリント、スナック菓子の包装作業、木工製品の製造等の受注作業を行いながら、今後は、農園芸事業で収穫した作物を加工し、オリジナル商品の開発にも取り組んでいく予定です。

## 和光園

齋藤 弘幸

当施設では入所者の方を中心とした生活介護（定員75名）事業があります。その活動の中で、『これーこんなもらたなや……』『きょうおもしえけー……』と興奮した表情で、利用者さんが話してくれる日があります。地元の3つの小学校との交流学习の時間です。毎年各学校の4年生や5年生の皆さんが来園され、自分たちで考えたゲームや、歌の披露、楽器演奏、演劇等を行い利用者さんと交流を行います。この時は、自分子供の頃や、ご家族の事を思い出されるのか、いつも以上にとても穏やかな表情を浮かべる方が多いように感じられます。緊張をほぐすために、施設側でミュージックケア（音



小学生と魚釣りゲームをして交流

療療法）を一緒に行う事がありますが、その時は、利用者さんが主導権を持って小学生をリードされています。

こういった地域との交流活動による触れ合いの一つひとつが、利用者さんにとって、喜び溢れる、ゆたかでやすらぎのある時間になっているようです。

## 清流園

笹 美和

当園では、平成十八年から、「自分達の生活は、自分達で良くしよう。」との事から自治会を発足しました。

自治会の名称は、幸福が訪れる事を願い「すずらん」と命名しました。



床みがきに専念 熱心な仕事ぶり

月一回会合を開催し、自分達で活動内容を決め実施しています。レクリエーションとして、映写会やカラオケを実施しています。年一回、奉仕活動という事で、同じ法人の老人ホームに出掛けて、掃除等のお手伝いをしてきています。園内の行事の際は、例えば、清流園祭では、喫茶店をしたり、模擬店のポップ作りをしたり、クリスマスパーティーでは、催し物を披露してくれています。自分達で企画しただけに、みんなとても生き生きとした表情で取り組んでいます。このように、色々な活動を経験し、積み重ねていく事で、きつと自分達の生活が豊かになっていくと、願っています。

知的障害児者・自閉症児者のための病気やケガの総合補償制度

# 生活サポート総合補償制度

※お申し込み・お問い合わせは・・・

知的障害児者  
生活サポート協会  
推進担当



A I U 保険会社代理店 (株) ジェイアイシー 南東北営業所

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町1-2-1 ライオンビル4F

TEL: 022-265-0010 FAX: 022-264-0081

E-Mail: info@jicsendai.co.jp ホームページ: http://www.jicgroup.co.jp

## 地域で魅力ある活動を展開

今年度、組織活性化委員会は第3回（5月29日）・第4回（7月17日）・第5回（10月30日）と通算3回開催した。

ここでは、第5回組織活性化委員会で取り上げられた内容を報告する。昨年より5回にわたって、「変われるか山形県手をつなぐ育成会」ひとりひとりに向き合う草の根運動」という共通のテーマをにかけて協議してきた。

話題の多くは出尽くした感じである。要は、会員増を図り、個々の会員のニーズに合ったサポートが的確にできる組織づくりだ。それをどう実行するかが求められている。

第5回組織活性化委員会の協議議題は、『県育成会として魅力ある活動をどううちだしていくか』であった。さらに、それを補強するサブタイトルは、『現会員が満足し、新会員の入会を促進するための具体策はいかにすべきか？』魅力ある育成会にするための事業の展開。

今年度、通算7回にわたって実施した「地域活性化事業」研修会は今後の突破口になりそうである。若年層向けのテーマで、各地区において

開催した。参加者募集にあたって、積極的に特別支援学校等の保護者に声をかけ誘った。

こうしたことを地区育成会がもっと前面に出て、県事務局が協力する体制ができることがのぞまれる。

また、定期的な会合を継続することが必要である。人が集まらないから中止とせず、少人数でも集まってお茶のみ話に花を咲かせる。それが会員相互の共通理解を深める。

互いの情報交換によって、困ったこと、悩んでいることの解決に向けたヒントとなる場合も多い。

会員でなくても誘い合って、悩みを打ち明ける機会と場を提供する。型にはまった会議優先・役員だけが集まる会議だけでは、ハードルが高すぎる。法律の話もいいが、もつと身近な日々の問題に対応する育成会にすることである。

こうしたことは、1人ではできない。でも、2人以上になればできる。2人から始める。2人が別な人に声をかけ誘うと、4人になる。そんな地道な活動を根気よく継続できれば育成会は維持できる。

もちろん、他のこともあって忙しいのもわかる。自分のため、子供のためとなれば育成会に顔出すのもおっくうでなくなる。

山形県手をつなぐ育成会はホームページ・ブログで情報を発信しています。ブログはケータイやスマートフォンでも見る事ができます。ぜひご利用ください。

### 平成26年度年間計画

#### 第26回福祉大会

6月21日（長井市）

平成26年度県知的しょうがい者レクリエーション大会

9月17日（県総合運動公園）

第54回手をつなぐ育成会東北ブロック大会

9月20日・21日（三沢市）

第63回全日本手をつなぐ育成会全国大会

9月27日・28日（松江市）

### 編集後記

◆平成25年度は、地域活性化事業を目玉として各地域において研修会を実施した。若い保護者に向けた取組であった。7回の研修会で173人が参加した。

◆育成会は親たちの悩みに寄り添う組織として今後も活動を継続する必要があります。会員の方々のますますの協力をお願いしたい。

◆編集委員（押切イツ子・澁谷博夫・菅野裕子・事務局Ⅱ黒木仁・古澤薫・八楸三郎）

病気・ケガの入院 個人賠償補償 被害事故の解決

障がいのあるご本人と、そのご家族・施設従事者のための総合保険です。

ぜんちの  
**あんしん保険**

平成25年料率改定

少額短期損害総合保険（無告知型）2012年製

※この広告に掲載の料率表は、ご契約の際には必ずお読みください。  
（最新料率表は別途発行いたします）

保障内容（A-1プランの場合 年間保険料17,000円）

死亡保険金	10万円	法律相談費用	5万円 <small>までの上限</small>
特定重度障害保険金	10万円	弁護士委任費用	100万円 <small>までの上限</small>
入院保険金	1日につき 8,000円 <small>※1</small>	接見費用	1万円
入院一時金	10,000円	個人賠償責任保険金	1,000万円 <small>※1</small>
傷害通院保険金	1日につき 1,000円 <small>※2</small>		

詳しい資料のご用命は、下記代理店へお願いいたします。

○取扱代理店

株式会社エフシーバンク TEL 022-348-4481  
〒981-3213 宮城県仙台市泉区南中山3-11-18

○引受保険会社

ぜんち共済株式会社  
〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-5-8  
岩本町シティプラザビル 5F